

2014 活動記録

活動日時	2014年11月17日 午後1時半～4時半
場 所	セントポールズ会館 すずかけ会議室
出席者	6名
活動内容	<p>★テーマ：「韓国孤児に生涯を捧げた母（オモニ）、田内千鶴子と望月カズ」</p> <p>「望月カズ」38度線のマリア（昭和2年～昭和58年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳で母と満州へ渡ったカズは6歳で母を亡くし、自らが孤児になり満洲を放浪 ・終戦で帰国するが家を探せず、再び満州に戻ろうとするが38度線を越えられず ・1950年、朝鮮戦争勃発でソウルは戦争の最中、一発の銃声がカズの運命を変える ・倒れた女性が抱いていた赤ん坊を救出、孤児を育てることを決意した（カズ23歳） ・公の援助を受けず、重労働や売血をしてまで沢山の孤児を育てた、その数133人 <p>「田内千鶴子」木浦が泣いた（大正元年～昭和43年）</p> <p>DVD鑑賞</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・千鶴子の父は朝鮮総督府の木浦支庁の役人であった ・7歳で母と朝鮮に渡り、木浦の女学校で音楽を学ぶ ・周囲の大反対の中、27歳で木浦「共生園」のクリスチャン 尹致浩<small>ユンチホ</small>に嫁ぐ（50人の孤児から祝福を受ける） ・1945年、35年間の日本の支配から解放され、日本人と朝鮮人の立場が逆転（夫は親日派として白い目で見られる） ・1950年、朝鮮戦争勃発時、共生園には300人もの孤児がいた <p>・夫が食料調達に出たきり行方不明に、千鶴子は子供達の為に夫の代わりを務める</p> <p>・「尹鶴子<small>ユンハクジャ</small>」になりチマチョゴリ姿、リヤカーを引き食料集めに奔走、共生園を守る</p> <p>・育てられた孤児3千人、千鶴子の市民葬3万人、「木浦が泣いた」と翌日の新聞</p> <p>..... 意見交換 (写真、夏目さん提供)</p> <p>・このような立派な女性達がいたことを知らなかった</p> <p>・近代史を深く学ばなかった私達と韓国とのギャップ</p> <p>・自分の子供達と孤児を全く平等に育てた千鶴子は偉かったが、母の愛情を独占できなかった気持ちに同情</p> <p>・終戦で千鶴子が帰国、姉に勧められ致浩<small>チホ</small>は後妻を迎えるが千鶴子が意を決して韓国に戻ると女性は出て行く</p> <p>その時の致浩の態度に疑問、そういう時代だったのか</p> <p>・偏見や差別、自分たちの心を覗くいいチャンス</p> <p>※韓国語を学び始めてから沢山の知らなかった事柄に触れ又多くの韓国の友人を得た。激動の時代を異国で生きた二人の女性。この他にも韓国で骨を埋めた日本人がいる。本物の愛は、国境を越え人々の心を動かすのだと思う。今、この時代にもう一度彼女達の熱い思いを学び、隣国と親しくしていくことの大切さを思う。</p> <p>（長男の尹基氏は日本・関西で在日の高齢者のための施設を運営している）</p> <p>参考本：愛の黙示録（田内基）、朝鮮を愛し朝鮮に愛された日本人（江宮隆之）、日本人なら絶対知っておきたい韓国の歴史（山崎赤秋）</p> <p style="text-align: right;"><福井：記></p>

